

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	岐阜県	市町村名	多治見市	地区名	多治見駅周辺地区	面積	34.0 ha
計画期間	平成 18 年度 ~ 平成 22 年度	交付期間	平成 18 年度 ~ 平成 22 年度				

目標	
大目標	こちよい風景があり、そして、賑わいのある多治見の新たな顔づくり
目標1	土地区画整理事業の推進により、商業機能・居住機能が調和した安全で快適な都市環境を創出する。
目標2	駅周辺の道路整備による駅へのアクセスを改善し、誰もが利用しやすい交通環境の創出を目指す。
目標3	市民が集い交流できる賑わい拠点を創出する。

目標設定の根拠	
<p>まちづくりの経緯及び現況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本地区は、JR中央線多治見駅を中心とする地区であり、商業地域として商業業務機能や駅直近の利便を活かした土地利用、そして、東濃地域の表玄関としての顔づくりが望まれている。そうした中、駅北側においては、大規模な旧国鉄跡地が位置し、都市基盤の整備も立ち遅れていることから、旧国鉄跡地(市有地)を中心に市施行の土地区画整理事業が平成11年度からスタートしている(平成14年度仮換地指定、平成16年度駅前広場完成)。一方駅南側においては駅前広場は整備済みであるが、駅北地区の整備にあわせ、南北一体となった利便性の向上が望まれている。 ・駅北側整備に伴う環境改善にあわせ、駅北側への西側からのアクセス道路が交通渋滞を招いているため、今後の駅北の交流拠点整備及び太平公園の整備にあわせ、これらの拠点を往来する交通量の増加が想定されるため、交通処理をスムーズに行うための路線整備が望まれる。 ・本地区の東側は中心市街地活性化基本計画の区域内に位置しており、同基本計画では、土地区画整理事業の推進、南北自由通路の整備、多目的広場や地域交流センター等の新拠点づくりによる活性化の方向が示されている。また、本地区は市のパリアフリーモデル地区に指定されているため、「ゆとりとやさしさが享受されるまちづくり」の形成に配慮する。 ・まちづくり活動としては、まちづくり協議会の他、地権者を中心に「まちづくりガヤガヤ会議」「多目的広場ワークショップ」を開催し、区画整理(土地利用)や多目的広場等について協議を進めている。 	
課題	
<p>本地区は土地区画整理事業の推進による計画的な都市基盤の整備と地区のポテンシャルを活かした土地利用の誘導及び新たな拠点づくりが課題である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・駅前である本地区の特性を活かすため、商業地・住宅地が調和したまちづくりが必要である。 ・駅北側からの駅利用者は多数いるにもかかわらず、駅舎へのアクセスがスムーズでないため、駅利用者への利便性、安全性の向上を図ることが必要である。 ・地区内生活道路への通過交通の流入がみられ、交通機能の段階的処理ができておらず、市民が安心して生活できる交通体系が必要である。 ・誘致距離等に配慮して、憩い・うるおい・防災等の機能を有する公園を整備することが必要である。 ・多目的広場、地域交流センター、太平公園等の整備により、新たな市の拠点を創出すると同時に、既存の拠点施設の再整備が必要である。 ・駅の橋上化・自由通路の整備にともない、南北の駅へのアクセス動線が現在よりも西へ移動するため、それを補完する南北の駅周辺の環境整備が必要である。 	
将来ビジョン(中長期)	
<p>都市基盤の充実を図り、人口の定着及び商業・サービス機能を誘導し、中心市街地の活性化を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第5次総合計画では「活気がある中心市街地を形成する地区として、安全で快適な暮らしやすい住まいを整備するとともに、個性的な商業・商店街の展開を図る。さらに、新しい拠点の整備を一体的に進め、本地区を利用する全ての人がひとが集い、ゆとりと活力を感じることができるまちにする」と位置づけている。 ・都市計画マスタープランでは、中心市街地ゾーンとして位置づけており、賑わいと活力のあるまち多治見を再生する地区として、都市基盤の充実を図り、誰もが移動しやすい交通環境づくりを目指すとともに、土地利用の高度利用を図り、商業の活性化と新たな人口の定着を促進する地区であると位置づけている。 ・土地区画整理事業区域から西側の地区については、緑の多い、住宅中心の市街地形成を目指す地区と位置づけている。また、幹線道路と生活道路の整備改善を進め、安全な道路空間の確保を目指すとしている。 ・中心市街地活性化基本計画では、活性化のための基本方針として「暮らしやすい環境をつくる」「集客機能の充実」「美濃焼文化を生かす」「人にやさしい交通環境をつくる」が示されている。 	

目標を定量化する指標							
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
交通利便性に関する満足度	ポイント	既存の市民意向調査による鉄道・バス(公共交通機関)などの利便性に対する満足度評価をみる	土地区画整理事業、人工地盤整備、駅南駅前広場再整備等により、交通環境の向上を図ることを目標とし、満足度3.50を目指す。	2.96	H15	3.50	H22
街並み景観に関する満足度	ポイント	既存の市民意向調査による街並みの美しさに対する満足度評価をみる	土地区画整理事業、公園整備、多目的広場整備等により、東濃地域の顔として魅力ある景観形成を図ることを目標とし、満足度3.50を目指す。	2.62	H15	3.50	H22
住環境に関する満足度	ポイント	既存の市民意向調査による住環境の整備に対する満足度評価をみる	土地区画整理事業、公園整備、多目的広場整備、耐震性貯水槽整備により安全で快適な都市環境を創出することを目標とし、満足度3.50を目指す。	2.83	H15	3.50	H22
自由通路利用者数	人/12H	自由通路における歩行者交通量	駅乗降客数は減少傾向にあるが、駅周辺における新たな顔づくり、駅へのアクセス動線の改善により、自由通路の利用者数10,000人を目指す。	6,745人/12h	H17	10,000人/12h	H22

※ポイントは、「3ポイント」より低い場合は「不満」、高い場合は「満足」。最低は1、最高は5